

# サクラソウの学名 (プリムラ シーボルデー)の由来

江戸末期、シーボルトが帰国に際して、伊藤圭介より桜草標本の提供(野生か園芸種かは不明)を受けました。ちなみに、伊藤圭介はシーボルトの日本における協力者、日本最初の理学博士であり、国会図書館に寄贈された伊藤文庫には、「桜草花集」、「桜草作伝法」、「桜草百種」があります。そのうち、7種類を *Primula.cortusoides* Lとして、生体標本のまま、オランダに移送しました(輸送手段はウォードの箱を使用したと思われる)。



生体標本の移送に使用されたウォードの箱 (wardian case / 複製) ▶  
高知県立牧野植物園蔵

シーボルトの植物標本は、オランダのライデン国立植物標本館や、ロシアのコマロフ植物研究所などに所蔵されています。国立植物標本館(ベルギー、ブリュッセル)へ、その後の生体標本はレントに移されました。直後、ベルギーが独立し、桜草標本はベルギーの所蔵になりました。シーボルトの死後、ベルギー人 E. Morr (1833-1886) が再分類してこれらを新種としました。そして、採取者のシーボルトを記念して、*Primula.sieboldii* von E. Moren と命名しました。